



子ども・若者の居場所について



会派 きずな ● 奥村 幹郎 議員

問 まちづくりセンター等公共施設の活用について

答 各地域まちづくり協議会を中心に、放課後や夏休みの居場所として学びや体験活動を通じて子どもたちを見守る取組を進めていただいており、ロビーを開放して学生の自主学習スペースとして活用されているところもあります。今後は学習支援だけではなく、地域の大人との交流やボランティア活動など多世代のつながりを育む居場所づくりへと発展させていきたいと考えております。

問 全天候型遊び場について

答 「湖南市公園等ストック再編基本計画」においては全天候型の遊び場となる施設整備は計画していません。現在候補となる既

存の公共施設の選定を進めるとともに、先進自治体の調査を進めているところで、乳児期↓幼児期↓児童期の各年齢にに応じて遊びのレベルを変化させ、子どもたち一人ひとりの成長に合わせた遊び空間について検討しているところです。

三雲駅南側市有地の活用について

答 様々な事業者と協議を重ねてまいりましたが、事業化はむずかしい状況となつています。しかしながら使われ活きる公共空間を市民と協働により作り上げることは、今後の賑わいを創出する上で重要な視点と捉えており、まずは実験的な運用を目指して地元の皆様と活用策について知見を集めてまいりたいです。



湖南市活性化について



会派 きずな ● 望月 卓 議員

問 街路樹の「倒木予知パトロール」は。

答 専門的な診断による内部腐朽や根系の弱体化を把握することが不可欠であり、目視点検だけでは限界がある。通常のパトロールを基本に、必要に応じて樹木医等による診断を行い、効果的な安全管理を進めてまいります。



問 今後のウツクシマツの取組について。

答 「現地での育成」については、自生地が有する本質的価値の維持へ、『国指定天然記念物 平松のウツクシマツ自生地保存活用計画』をもとに、環境条件の整備と維持管理に重点を置いた保全施策を推進。病害虫対策は、空中散布による薬剤散

布や下草刈り、落葉かきを実施。獣害対策は、シカなどによる苗木や若木への被害を防ぐため、柵を設置し、天然更新の妨げとなる要因の軽減を図って行きます。

「観光資源」の一環に、JRハイキング、「東海道からウツクシマツ自生地を歩くコース」推奨や地元のイベントの実施等、ハイキングや日常のウォーキングなど犬などのペットの同伴も含めて、余暇の楽しみや健康づくりのため、自生地周辺を歩いていただく等、市内外の人々に、ウツクシマツの理解を得、自生地周辺が憩いの場となるよう、努めてまいります。

